



2019・11・08

2019 殿堂者（殿堂入り） 2019 歴史遺産車

2019～2020 殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(東京大学 教授)

事務局:〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511 / FAX:03-3291-4418 <http://www.jahfa.jp>

表彰式典: 2019年(令和元年)11月15日(金曜日) 11時～12時30分
学士会館 式場(202号)

1. 2019 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 3名

小杉 二郎 氏 (東洋工業=現マツダ=などでカーデザイナー、1915～81)

「工業デザイン思想」に基づく車づくりの先駆者

小杉 二郎氏は、自動車の新たなデザイン開発に貢献し、当時、社会に馴染んでいなかった「工業デザイン思想」の重要性を提唱し、デザインは技術開発と同様の作業工程があることを提示し、先駆者として多くの功績を残されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

染谷 常雄 氏 (東京大学名誉教授、工学博士、1931～)

エンジン滑り軸受解析の道を拓く

染谷 常雄氏は、エンジンの滑り軸受の振動及び安定性と、油膜圧力との関係を理論解析と実験により明らかにし、滑り軸受の国際標準化や燃焼機構の解明と制御、さらに大気汚染行政への支援とその推進など、学術の発展に多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

大槻 幸雄 氏 (川崎重工業元常務取締役、工学博士、1930～)

大型二輪車の開発によりカワサキブランドを確立

大槻 幸雄氏は、大型二輪車の開発において優れた加速性能および最高速度を実現し、また排ガス規制対応のため2ストロークから4ストロークへの転換を図り、カワサキオートバイのブランドを確立するとともに、ガスタービン研究に優れた業績を残されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

2. 2019 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4車

三菱A型（三菱甲型）（1918年）

三菱A型は、日本で最初の量販車とされている。1918年に図面や知識、工具もない中で、当時の欧州車を分解・研究し、部品を一から自作するとともに、設計から生産、販売、さらにアフターサービスまでを視野に入れながら量産化の模索が行われた。その先見性と努力が結晶となった三菱A型は歴史に残る貴重な名車である。

いすゞエルフ TL151型（1959年）

いすゞエルフは、1959年の発売以来、60年にわたり、積載量2～3トンクラスキャブオーバートラックのトップブランドとして君臨してきた。その初代 TL151型は高い積載性と優れた運転席設計に加え、経済性と高出力、信頼性に優れたディーゼルエンジンを搭載し、その後の小型トラックのディーゼル化の流れを牽引した歴史的名車である。

ヤマハ スポーツSR400（1978年）

ヤマハ スポーツSR400は、1978年の発売以来40年にわたり、単気筒エンジンの中型免許で乗れるバイクとして、独特の味わいと魅力をライダーたちに提供してきた。2度の排ガス規制の壁を乗り越え、長期にわたり生産を継続し、世界でも貴重なロングセラーバイクとして評価される歴史に残る名車である。

マツダ/ユーノス ロードスター（1989年）

マツダ/ユーノス ロードスターは、変わらぬコンセプトを維持しながら、四代にわたり作り続けられてきた。累計生産台数は100万台を超え、ライトウェイトスポーツカーとしての世界記録をいまなお更新し続けている。魅力的なスタイリングやクルマを操る楽しさを提供し、日本の技術水準の高さを世界に知らしめた歴史的名車である。

3. 2019～2020 日本自動車殿堂 イヤー賞

2019～2020 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

「トヨタ カローラ/ツーリング」および開発グループ

TNGAプラットフォームによる商品力の向上

充実した予防安全装備「Toyota Safety Sense」

信頼のT-Connectサービス

2019～2020 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

「メルセデス・ベンツ Aクラスセダン」およびインポーター

シンプルなフォーマル・セダンの先駆け

先進のインテリジェントドライブ

対話型インフォテインメントシステムの進化

2019～2020 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

「BMW Z4」およびデザイングループ

新しいデザイン言語で包まれた伝統のロードスター

低重心シルエットに調和するデザイン

高性能インストルメントによる快適運転

2019～2020 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

「日産スカイライン プロパイロット 2.0」および開発グループ

ナビ連動 高速道路 運転支援システム

360度センシングによる車両周辺状況の検知

インテリジェント・インターフェース

以上

【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 山田国光

info@jahfa.jp

TEL:03-3291-8511 FAX:03-3291-4418

* 日本自動車殿堂の組織、活動実績
などについては

<http://www.jahfa.jp>

をご覧ください。

参考資料 1

2019～2020 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2019～2020 日本自動車殿堂カーオブザイヤー	(MAX:1400 点)
1位 「トヨタ カローラ/ツーリング」	900 点
2位 「マツダ3/ファストバック」	831 点
3位 「日産スカイライン」	763 点
2019～2020 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー	(MAX:1400 点)
1位 「メルセデ・ベンツ A クラスセダン」	1016 点
2位 「BMW 7 シリーズ」	767 点
3位 「ボルボ XC90」	734 点
2019～2020 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー	(MAX:1100 点)
1位 「BMW Z4」	687 点
2位 「メルセデス・ベンツ EQC」	611 点
3位 「マツダ 6」	568 点
2019～2020 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー	(MAX:1100 点)
1位 「日産スカイライン:ProPILOT2.0」	883 点
2位 「レクサスES:デジタルアウターミラー」	744 点
3位 「アウディQ8:4輪操舵AWS」	659 点

参考資料 2

日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

1. イヤー賞 4賞の選考

当該年度において発売された「最も優れた乗用車・輸入車・デザイン・テクノロジーおよびそれらの開発グループ等」を表彰する。

2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2018年10月21日から2019年10月18日までをその期間とする。

3. 選考方法

- (1) イヤー賞は、選考の客観化と定量化そして高質化を目指し事前に各賞の選考委員集団の評価特性を位置付ける。すなわち、評価を行う側の委員の評価特性を「実用利便性」「経済性」「先進性」「安全性」「環境性」「審美性」などの項目により計量・解析し、レーダーチャートによって提示する。
- (2) 各賞の選考は、選考委員の投票によって行う。
- (3) 選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ50名があたり。
- (4) 選考の投票には、総合評価および階層分析法(Alytic Hierarchy Process)を組み合わせた選考準備委員会が構築した方式(データの正規化などによる評価の客観化・定量化)を用いる。

以上